

授業に役立つ  
国際理解/開発教育実践の第一歩

JICA地球ひろば

平成21年度  
教師海外研修  
授業実践報告書集

埼玉・千葉県教員【モンゴルコース】

# MONGOL



JICA LIBRARY



1208294 [7]



地球ひ
J R



独立行政法人 国際協力機構



# 目次

■ 目次	01			
■ はじめに	02			
■ JICA 地球ひろばのめざすもの / 「JICA 地球ひろば 教師海外研修」とは？	03			
■ 研修のながれ	04			
■ 海外研修日程	05			
■ 海外研修トピックス	06			
■ モンゴル情報	08			
■ 研修を活かした授業実践例				
実践者 学校名	授業実践学年	タイトル	授業実践教科	
梅沢 智代 埼玉県 ふじみ野市立上野台小学校	小1	みんなだいすき	生活、学活、道徳	10
増永 文子 千葉県 柏市立柏第三小学校	小1	モンゴルってどんなところ？	国語、学活、外国語活動	16
平澤 由美子 埼玉県 加須市立加須南小学校	小3	みんな友達 みんな仲間 世界に輪を広げよう ～みんな違って みんないい？～	総合的な学習の時間	20
吉村 珠美 埼玉県 川越市立高階南小学校	小5	自分にもできる国際協力	国語、外国語活動	27
日坂 修 埼玉県 さいたま市立大砂土中学校	中1	様々な国や地域、多様な文化や生活様式について知る	社会	32
谷津 勇太 埼玉県 久喜市立久喜中学校	中2	「人」からつながり、国際協調を考える	総合的な学習の時間	35
井戸 秀紀 埼玉県 新座市立第三中学校	中3	キャップの先に、広がる世界 ～身近で新鮮な国際協力を実行する～	総合的な学習の時間、学活	39
沼尾 悠 埼玉県 さいたま市立大砂土中学校	中3	世界の子ども達	総合的な学習の時間、道徳	44
鎌田 葉子 埼玉県立伊奈学園総合高等学校	高1	国際協力という生き方	総合的な学習の時間	49
久保田 縁 千葉県立成田国際高等学校	高1	同じ？違う？どう思う？	総合英語	53
藤井 剛 千葉県立千葉高等学校	高2	ODAを考える	政治・経済	57
森 裕紀子 千葉県立銚子特別支援学校	高1～3	つながりを感じよう！	社会	62
■ 参考資料	69			
■ 参加者氏名／同行職員より	1.4.5.6.8 73			

---

# はじめに

独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している「教師海外研修」は、国際理解教育および開発教育に関心のある先生方が、開発途上国の置かれている現状と日本との関係への理解を深め、その成果を次世代を担う児童・生徒の教育に役立てていくことを目的に実施しています。毎年全国で約 150 名の先生方に、国際協力の現場での関係者や現地学校との交流を通じて、多くの教材を持ち帰っていただいています。

今年度は「JICA 地球ひろば」より 1 都 6 県（栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、山梨県）から合計 36 名の先生方にご参加いただき、国内研修を経てラオス、モンゴル、マレーシアの 3 カ国を訪問しました。

国内研修では、国際理解教育の基礎および訪問先の国事情といった多くの情報を吸収し、考え方・手法を学びました。また帰国後は各都県において授業実践報告会を開催し、過年度参加者と共に地域での国際理解教育のネットワークが広がるきっかけづくりとして、企画・実施をしています。

本書では、教師海外研修に参加した先生方から、それぞれの学校や地域において実践された様々な事例をご紹介します。受講者の感想や授業作りのポイントも随所に掲載されておりますので、それぞれの「授業での活かし方」を多くの教育現場で参考にいただければ幸いです。

なお、東京・広尾にあります「JICA 地球ひろば」は、市民参加による国際協力の拠点として、多くの市民の方々にご活用いただいています。展示・相談スペースや図書室、途上国の料理を味わえる「カフェフロント」もあり、修学旅行や社会科見学での活用、国際理解についての調べ学習、その他先生方の国際理解教育の相談にも対応させていただいております。ぜひ「JICA 地球ひろば」にお越し下さい。

平成 22 年 2 月

JICA 地球ひろば  
所長 貝原 孝雄



1208294 [7]

---

# JICA 地球ひろばのめざすもの

JICA 地球ひろばは、市民参加による国際協力の拠点として多くの市民が訪れ、途上国の人々への共感や連帯感を育む場となり、国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流、研修の拠点として利用される場となることを目指して設立されました。

この JICA 地球ひろばでは、皆様の国際協力活動を応援し、ボランティアの心で国際協力に参加する人々が増えること、地域社会での体験に根ざした市民による国際協力がより確実に途上国の住人ひとりひとりに届くことを推進したいと考えます。

## 「JICA 地球ひろば 教師海外研修」とは？

### ◇研修の目的

開発教育 / 国際教育 / 国際理解教育に取り組んでいる、または今後取り組む意欲のある教員を対象に、開発途上国での研修を通じ、途上国の置かれている現状と日本との関係を深め、その成果を次代に担う児童・生徒の教育に役立てていくことを目的として実施します。

また、研修参加後、JICA 地球ひろばと協力し、地域や教育現場で開発教育 / 国際理解教育の推進に活躍していただくこともねらいとしています。

### ◇応募資格

- ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校（1～3年）、特別支援学校等、及び教育委員会において教育活動に従事していること。
- ・年齢が応募締め切り時満 50 歳以下であること。
- ・所属校の校長（教育委員会においては所属長）の推薦があること。
- ・過去に、本研修、JICA 海外ボランティア事業、JICA 専門家、ODA 民間モニター等で海外に派遣された経験がないこと。

### ◇平成 21 年度研修国

- ・ラオス（東京都）
- ・モンゴル（埼玉県・千葉県）
- ・マレーシア（栃木県・群馬県・千葉県・新潟県・山梨県）

### ◇海外研修期間

- ・約 10 日間（毎年 7 月下旬～8 月上旬に実施）

### ◇募集時期

- ・毎年 4 月上旬～5 月上旬

### ◇お問い合わせ

JICA 地球ひろば 地域連携課

Tel : (03) 3400-7327 Fax : (03) 3400-7394

## 研修の流れ

### ◇第1次～3次研修

#### ■第1次研修：6月13日（土）～14日（日）

授業実践において役立つ参加型学習について学びました。

#### ■第2次研修：6月28日（日） **都県別で実施**

帰国後の授業実践をより実りあるものにするために、  
海外研修における目的を再確認しました。

#### ■第3次研修：8月2日（日）

出発前の最終確認をしました。

さあ、いよいよ研修国に向けて出発です！



### ◇海外研修

#### 8月3日～12日（10日間）詳細は5～7ページを参照ください。

研修国の現状を実際に自分の目で見て肌で感じ、  
様々なことを考えました。



### ◇帰国時研修

#### 8月23日（日）

海外研修で得られた資料を活用する授業について考えました。

### ◇各校での授業実践

#### 9月～12月

研修で得られた経験、資料を活かし、  
参加者がそれぞれ授業を実践しました。



### ◇授業実践報告会

#### ■都県別授業実践報告会：1～2月 **都県別で実施**

研修で得られた経験、資料を活かして実践した授業について報告しました。

#### ■全体成果報告会：3月7日（日）

1年間の研修を振り返り、次年度への展望を参加者全体で考えました。本研修の総決算です。

## 海外研修日程

研修テーマ：経済成長と格差

月日	曜日	時間	内 容	ねらい	場 所
8月3日	月		→成田発→北京		北京
8月4日	火	午前	→北京→ウランバートル		ウランバートル
		午後	【JICA 事務所】 ブリーフィング	JICA 事業全般の概要把握 滞在ブリーフィング・留意点など	
8月5日	水	午前	【博物館見学】 民族歴史博物館	モンゴルの歴史、文化の学習	ウランバートル
		午後	【青年海外協力隊、シニア海外ボランティア】 セトゲムジ総合学校  【教育ブリーフィング】 教育文化科学省	校長から学校の概要説明 JICA ボランティア：理数科教師、 小学校教諭〔現職参加教諭〕との 意見交換  技術協力プロジェクト 「子どもの発達を支援する指導法 改善プロジェクト」の概要から教育 事情を理解する	
8月6日	木	午前	ウランバートル市→ボルガン県ボルガン		ボルガン
		午後	【草の根技術協力・保健医療】 ボルガン県保健局、家族病院、近隣の 家庭訪問	地方における保健医療の課題 「ボルガン県ボルガン市第3地区 における母と子のための地域ぐる み健康まちづくりプロジェクト」 の視察	
8月7日	金	午前	【中間振り返りミーティング】	研修前半及び全体の振り返り・整理	ウランバートル
		午後	【技術協力プロジェクト】 複合農牧業経営モデル構築支援プロ ジェクト	プロジェクト対象の農家訪問	ウランバートル 郊外
8月8日	土	午前	ウランバートル→中央県アルタンボラグ		中央県 アルタンボラグ
		午後	【ホームステイ】 遊牧民のゲル	遊牧民の生活、文化体験	
8月9日	日		中央県アルタンボラグ→ウランバートル		
8月10日	月	午前	【青年海外協力隊】 国立孤児院夏期キャンプ場	教育現場での交流授業	ウランバートル
		午後	【有償資金協力・シニア海外ボランティア】 第4火力発電所	JICA 事業・JICA ボランティアの 活動電力供給の課題と対策	
8月11日	火	午前	【市内視察】 ゲル地区、ガンダン寺、市場	写真などの教材入手	ウランバートル
		午後	【振り返りミーティング】	プログラム全体の振り返り、意見 交換	
			【JICA 事務所】 研修報告	事務所への研修報告	
			【市内視察】 開発教育関連教材収集	生活用品などの教材入手	
8月12日	水		→ウランバートル→成田着		

## 海外研修トピックス

### ◇セトゲムジ総合学校

モンゴルの教育現場の理解を図るために学校を視察し青年海外協力隊員を交え現地教員と意見交換を行いました。

#### 【参加者の感想】

\*「学習することは夢を叶え、国を良くすることにつながる」という教育に対する熱い思いを聞いて感銘を受け、私自身の日々の教育活動について考えさせられた。



### ◇教育文化科学省ミーティング

JICA 技術協力プロジェクト「子どもの発達を支援する指導法改善プロジェクト」担当者とのミーティングを行いました。

#### 【参加者の感想】

\*「今モンゴルに必要なのは、一つのことに対して自分の考えだけでなく他の意見も受け入れていく力である」という言葉に共感を覚えた。私も常に視野を広く持っていたい。



### ◇ボルガン県保険局—家族病院—ボランティアヘルスワーカーによる家庭訪問同行

草の根技術協力「ボルガン県ボルガン市第3地区における「母と子のための」地域ぐるみ健康まちづくりプロジェクト」担当者からブリーフィングを受けた後、家族病院を視察し近隣の家庭を訪問しました。

#### 【参加者の感想】

\*医師や看護師の方々の専門家としての熱意と誇りを感じた。  
また、モンゴル人のボランティアヘルスワーカーと各家庭の温かい信頼関係にも心を打たれた。



### ◇ボルガン市内視察・教材収集

地方の町の日常生活に触れて見識を深めるために青年海外協力隊と共にボルガン市内を散策しました。

#### 【参加者の感想】

\*都会とは違う穏やかな雰囲気のものびりした町だった。  
家庭訪問から戻る途中に手を振ると、その家の人だけでなく、近所の子どもたちがみな手を振ってくれて心温まる思いがした。





## ◇複合農牧業経営モデル構築支援プロジェクト

JICA 技術協力プロジェクト「複合農牧業経営モデル構築支援プロジェクト」のサイトを視察しました。

### 【参加者の感想】

\*家畜を育てながら野菜も育てることはモンゴルではまだ珍しいようだが、現地のモンゴル人にとって、より良い方法を選択し少しでもプロジェクトが活きたらと思った。

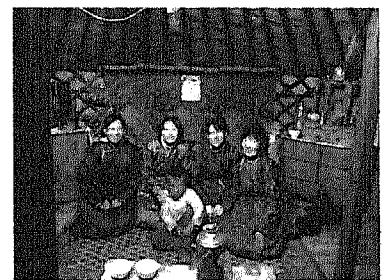


## ◇ゲル（遊牧民のテント型住居）ホームステイ

モンゴルの遊牧生活や文化を体験するため、遊牧民のゲルにホームステイしました。

### 【参加者の感想】

\*必要最小限の物だけを持ち移動するゲル生活ということで、様々な物を無駄なく使う様子や、いろいろな物がある物から作り出していることに感動した。そこに外から入ってきた私達がゴミを持ち込んでいる現状に考えさせられた。



## ◇国立孤児院夏季キャンプ場

国立孤児院夏期キャンプ場と青年海外協力隊の活動を視察し子どもたちと交流を行いました。

### 【参加者の感想】

\*「子どもたちにとって本当に必要な支援は物ではなく愛情」という話を聞き心が痛んだ。支援はただすればいいだけではないと気づき、国際協力の難しさを実感した。

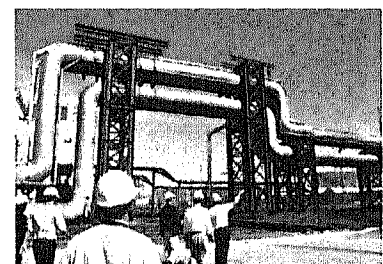


## ◇第四火力発電所

第四火力発電所を視察しシニア海外ボランティアと交流し電力供給の課題と対策について伺いました。

### 【参加者の感想】

\*教師として教育分野での国際協力に目がいきがちなか中、「電気」という人々の生活に直結する分野でも日本が大いに貢献していることに日本人としての誇りを感じ、こうした感情を生徒たちにも伝えていきたいと思った。



## ◇ウランバートル市内（ゲル地区・ガンダン寺・市場）

都市の日常生活に触れ、地方との差を考え見識を深めるためにウランバートル市内を散策しました。

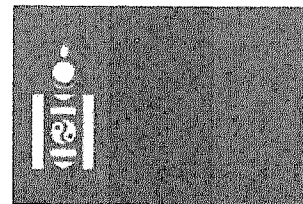
### 【参加者の感想】

\*ゲル地区では、冬の寒さに耐えるために多くの人々が「ゲル」から「家」に住み替えたため一般的な家が多かった。近代化と伝統的な生活様式の衝突を見た気がした。

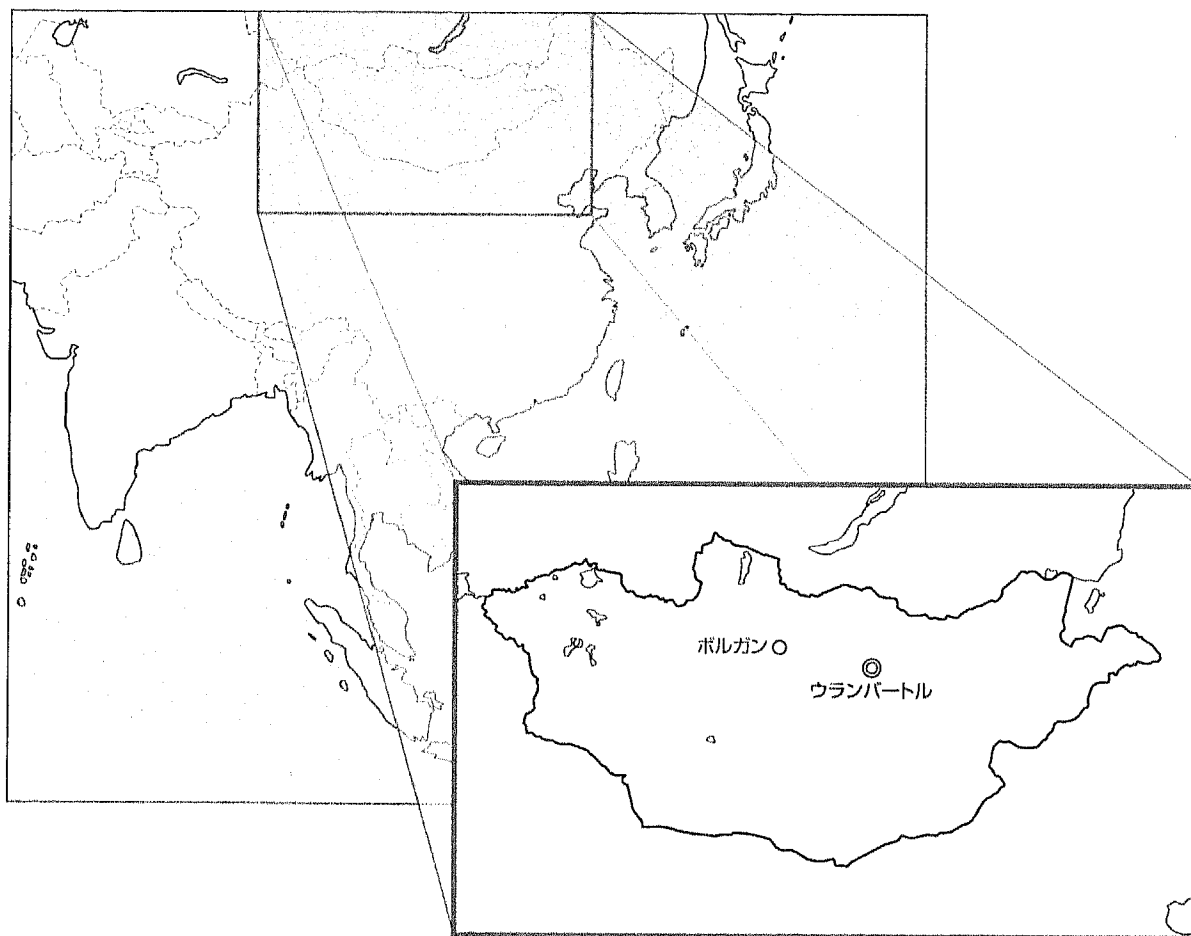


## モンゴル情報

- |          |  |
|----------|--|
| (1) 正式名称 | (和文) モンゴル国<br>(英文) Mongolia  |
| (2) 政体   | 民主制  |
| (3) 首都   | ウランバートル市   |
| (4) 人口   | 263万5200人(2007年統計年鑑)   |
| (5) 民族   | モンゴル人95%、ほかカザフ人など  |
| (6) 言語   | 公用語: モンゴル語   |
| (7) 宗教   | チベット仏教(ラマ教)  |
| (8) 略史   | 13世紀チンギス・ハーンがモンゴル帝国建国。17～19世紀は中国(清朝)の支配を受ける。1911年辛亥革命により清朝から分離、自治政府を樹立。1921年モンゴル革命により活仏を元首とする君主人民政府成立。人民革命で独立。1961年国連に加盟。1990年複数政党制を導入し、さらに大統領制が導入され、議会主義への転換を行った。 |
| (9) 気候   | 大陸性気候で年間を通じ雨量が少なく、乾燥している。最も寒いのは1月で全国平均気温摂氏15～33度、最も暑い時期は7月で、同17～28度。   |
| (10) 通貨  | トゥグリグ(Tg または MNT)  |



【参考】「JICA HP - 国別生活情報」国際協力機構、「外務省 HP - 各国・地域情勢」外務省

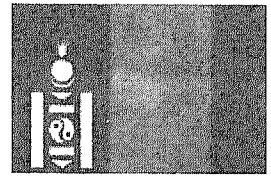


# 研修を活かした授業実践例

教師、および児童の原文を活かして掲載しておりますので、  
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

# みんなだいすき

- 担当教科：全教科
- 実践教科：生活、学活、道徳
- 時間数：8時間
- 対象：小学1年生
- 対象人数：25名



Mongolia

埼玉県

梅沢 智代

ふじみ野市立上野台小学校

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・家庭での自分の生活に目を向け、家の人と一緒に遊んだり仕事をしたりして、その楽しさを実感し、さらに自分のことは自分でする、家庭が楽しくなることを工夫する、家庭の仕事を分担する、などの自分の役割を積極的に果たすことができる。(生活)
- ・モンゴルの生活を知る中で、自分たちの生活との相違点や共通点を感じ取る。(学活)
- ・遊牧民の生活から、家族と一緒に笑顔で暮らすことの大切さを考える。(道徳)

## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1 2	<b>【楽しかったことを、教え合おう】</b> 家の中には、たくさんの仕事があることに気づく。 (生活)	①家の人と一緒にやって楽しかったことや、喜んでくれたことを教え合う。 ②家の中の仕事を絵カードに書き、自分のための仕事と家族のための仕事に分類する。	・ワークシート
3	<b>【モンゴルについて知ろう】</b> 自分とは違う国の子どもたちや家族の存在を知り、モンゴルについて興味を持つ。 (学活：72名対象)	①担任とモンゴルの家族が移っている写真のフォトランゲージ。「この人たちは、だれでしょう。」 ②モンゴルクイズ ③シャガイで遊ぶ。 ④民族衣装をみる。 ⑤モンゴル語で挨拶をする。 ⑥スーテーツァイを飲む。	・世界地図絵本 ・パソコン (パワーポイント) ・シャガイ(羊の骨) ・デール(民族衣装) ・スーテーツァイ (モンゴルのお茶)
4	<b>【家族との助け合い】</b> 遊牧民のパチュカ君の一日を知り、家族が互いに助け合って生活することの大切さを考える。 (道徳)	①自分とパチュカ君の、夏休みの一日の過ごし方を比べる。 ②ロールプレイを通して、互いに助け合って暮らしている遊牧民の家族の気持ちを考える。 ③遊牧民の家庭も自分の家庭も、互いに助け合って暮らしていることは、共通することであると気づく。	・紙芝居(パチュカ君の一日を紹介するため) ・ワークシート ・デール(民族衣装)
5	<b>【家族と笑顔で暮らすこと】</b> 世界中の家族の様子を知り、家族が笑顔で暮らせるために大切なことを考える。 (道徳)	①ブレインストーミングで「かぞく」という言葉から連想するものを付箋に書き、模造紙に貼っていく。 ②「地球家族」を使い「なかよしかぞく」はどの家族がグループで話し合う。理由も発表する。 ③始めに貼った付箋を、「なかよしかぞく」であるために大切なものの順に並べ替える。	・「地球家族」 ・付箋 ・模造紙
6	<b>【もっと楽しくしよう】</b> 自分の家庭生活をより楽しくするために自分で取り組む課題を考える。 (生活)	①自分の家庭生活に立ち戻り、家庭生活をより楽しくするために自分ができていることを計画する。 ②家庭と協力し、取り組みに対してお家の人から子どもたちに、メッセージをもらう。	・お手伝いカード ・ワークシート

各家庭	【家でやってみよう】 自分で立てた計画を、実際に家庭で取り組む。 (生活)	①家庭で一週間、「自分のための仕事」と「家族のための仕事」の2つに取り組む。 ②毎日提出させ、進行状況を把握し、励ます。	・お手伝いカード
7・8	【みんなに発表しよう】 自分たちが家の人たちの生活を楽しくするために工夫したことや頑張ったことを発表しあい、いろいろな家庭のあり方や、楽しく生活するための工夫に気づく。 (生活)	①自分が頑張った仕事の様子を、絵と言葉でまとめる。 ②友だちと発表を聞き合う。 ③友だちの頑張りや、工夫のよいところを見つける。	・お手伝いカード ・発表用ワークシート

### (3) 授業の詳細

#### 1・2時限目：【楽しかったことを、教え合おう】

- ①今まで家族と一緒にやって楽しかったことを発表し合う。
- ②その中で、家の中ではどんな仕事があるのか、絵カードを書いて発表する。
- ③絵カードを2種類（自分のための仕事・みんなのための仕事）に分類する。
- ④絵カードをプリントにし、自分は今までにどんな仕事をやったことがあるのか考える。

#### 3時限目：【モンゴルについて知ろう】

##### ①フォトランゲージ

○発問

この人たちは、だれでしょう。

児童の反応

- 友だち
- 先生の知り合いかな。
- 中国の人

##### ■支援・指導上の留意点

あまり意見が出ない場合は、住んでいる場所やどんな人たちなのか考えるよう、助言する。

##### ■使用教材

モンゴルのある家族の写真（プロジェクターで映す。）

○発問

○実は、この家族はモンゴルという国に住んでいる家族です。今日は、日本だけではなく、先生が出会った違う国に住んでいる家族もみんなに知ってほしいと思います。

##### ■支援・指導上の留意点

- ・モンゴルらしい背景はマスクングし、人だけが見えるようにする。
- ・なるべく日本人と変わらない様子の写真を選び、日本人ではないと知ったときの驚きを高める。

##### ②モンゴルクイズ（使用教材参照）

○発問

○モンゴルの場所と日本の場所を、地図で見よう。（モンゴルの場所、国旗）

○モンゴルの村の家族について、クイズをやってみましょう。（2択クイズ）

##### ■支援・指導上の留意点

- ・プロジェクターで写真を見せながら行う。

##### ■使用教材

世界地図、世界地図絵本、プロジェクター（写真）、シャガイ（羊の骨）

##### ③民族衣装 あいさつ

○発問

○「サエンバエノー。ナマエグ〜ゲテク（こんにちは。わたしの名前は〜です。）」と言いながら突然登場し、児童と握手をする。

##### ■支援・指導上の留意点

- ・別の教員が民族衣装を着て登場。

**発問**

- デールについて、説明する。
- ～さんは、何と言っていたのでしょうか？

**児童の反応**

- 名前！
- こんにちはかな？

**発問**

- モンゴル語のあいさつを教える。
- みんなも、近くのお友だちとモンゴル語で挨拶をして見ましょう。

**■支援・指導上の留意点**

- ・スライドを見せながら行う。
- ・プロジェクターで説明する。
- ・隣同士で、「サエンバエノー」と「ナマエグ〜ゲテク」を言い合い、握手をする。

**■使用教材：デール**

**⑤スーテーツアイ**

**発問**

- 最後に、先生からのお土産です。モンゴルのお茶をみんな飲んでみよう。

**■支援・指導上の留意点**

- ・小さな紙コップに1口くらいずつ、スーテーツアイを飲んでみる。

**■使用教材：紙コップ、お湯、スーテーツアイ**



民族衣装を着た教員の登場



シャガイで遊ぶ子どもたち

**4 時限目：【家族との助け合い】**

- ①自分とバチュカ君の、夏休みの一日の過ごし方を比べる。(紙芝居の読み聞かせ)
- ②ロールプレイを通して、互いに助け合って暮らしている遊牧民の家族の気持ちを考える。  
「おばあちゃんにありがとうと言われて、バチュカくんはどんなことを思いながら眠ったのでしょうか」

**児童の反応**

- バチュカくんは、おばあちゃんにありがとうといってくれたから、明日も頑張ろうとおもいました。だって毎日おばあちゃんが牛を十頭も飼っているからです。
- おばあちゃんが疲れないように、休ませてあげよう。
- 今日は、お手伝いして、よかったなあ…。頑張ってたかいたがよかったよ。「ありがとう。」って言われると、うれしいからなあ。ぼく、これからも、お手伝いしよう！頑張るぞおー。
- また、おばあちゃんが大変だからやろうかなって思った。明日、おばあちゃんに「明日はやらなくていいよ。」って言ってあげよう。

- ③遊牧民の家庭も自分の家庭も、互いに助け合って暮らしていることは、共通することであると気づく。  
「みんなはお家の人にありがとうと言われたことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。」

**児童の反応**

- ごはんを盛ったりするとお母さんはありがとうと言ってくれました。おにいちゃんと夜ご飯を作ったら、お母さんがありがとうと言ってくれます。
- お手伝いをしたときに言われた。そのときに、「お手伝いをしてよかったな。」って思いました。
- 「助かる。」とか、「いっぱい手伝いしてくれてありがとう。」を言ってくれるのがうれしい。
- お皿洗いをしていたら、お母さんがありがとうって言って、ぼくはもう一回やりたいという気持ちだった。
- ありがとうって言われるとなんだかうれしいなあ～。ふとんをたたんだり洗濯物をたたんだり、色々お手伝いをするとうれしくて言ってくれるからうれしいです。

**5 時限目：【家族と笑顔で暮らすこと】**

- ①ブレンストーミングで「かぞく」という言葉から連想するイメージを付箋に書く。
- ②「なかよしかぞく」のランキング  
・「地球家族」を使って、3つの家族の中で「な

かよしかぞく」だと思ふ家族をグループで話し合い、ランキングする。

**使用した写真と特徴**

イタリア：きれいな街並み。

家族同士あまり寄り添っていない。

メキシコ：家族同士が寄り添って座り、

みんながニコニコ笑顔で写っている。

日本：家具がたくさんある。

家族同士は離れている。

**<子どもたちの考えと理由>**

	1位	2位	3位
1班	日本(ピアノやテレビなど、楽しい物がたくさんあるから)	メキシコ	イタリア
2班	メキシコ(みんな楽しそうな笑顔だから)	日本(物が多くて、台風で飛ばされそうだから)	イタリア
3班	メキシコ(みんな楽しそうな笑顔だから)	イタリア	日本(家族が離れているから)
4班	メキシコ(楽しそうな笑顔だから)	イタリア	日本(家族が離れているから)
5班	日本(物がたくさんあるから)	メキシコ(笑顔だから)	イタリア
6班	メキシコ(笑っているから、景色がいいから)	日本(物がたくさんあるから)	イタリア(笑っていないから)

③「なかよしかぞく」でいるために大切なことを考える。

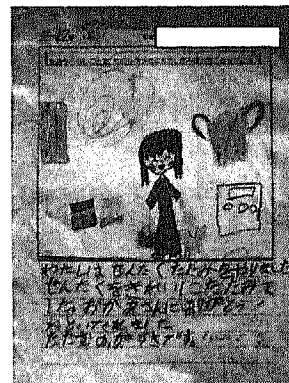
- ・始めにブレーストーミングで使った付箋を、「なかよしかぞく」でいるために大切な順に並べ替える。

**6 時限目：【もっと楽しくしよう】**

- ①自分の家庭生活に立ち戻り、家庭生活をより楽しくするために自分ができるところを計画する。
- ②家庭と協力し、取り組みに対してお家の人から子どもたちに、メッセージをもらう。

**7・8時限目：【みんなに発表しよう】**

- ①自分がかんばった仕事の様子を、絵と言葉でまとめる。(以下の写真)
- ②友だちと発表を聞き合う。
- ③友だちの頑張りや、工夫のよいところを見つける。



**【4】授業実践を終えて**

今回、生活科の単元にモンゴルのある村の生活を組み込んだ。文化や環境は違うが、ほかの国の人々も家族みんなで助け合って暮らしていることを知ってほしかったからだ。そして世界を通して、自分たちの生活と似ているところもあることに気付かせ、改めてお手伝いをするものの意味や大切さを考え、自分の家で実践させた。1年生というまだ小さな子どもたちだが、どんな些細な形でも、「知り、考え、行動する」ところまで子どもたちにやってほしかったので、身近な「家庭」「家族」という点に焦点を絞った。

また、道徳、学級活動でも授業を行った。1年生の子どもたちはとても感覚的である。そのため、で

きる限り視覚、嗅覚、触覚、味覚など、五感に訴えながら実践を行った。その結果、とても素直な反応が返ってきた。モンゴルクイズを行った時も「えー！サーカスかと思った！」「羊の骨ってください！」「このお茶、しょっぱいよー。おいしくない。」など、感じたことをそのまま声に出してくれた。モンゴルについて偏った印象を与えてしまうかな、と心配もしていたが、家に帰ってから見よう見まねでステーキをお家の人に作ってあげたり、ふとしたときに「サエンバエノー」と友だちに話しかけてみたりする児童もいた。

モンゴル＝ゲルやデール、草原だけではないが、1年生という小さい年齢の子どもたちにとっては、自分たちとの違いを大きく感じることは、かえってその国に対して強く興味を持つきっかけになるのかもしれない。

4時限目では、前時に興味を持ったモンゴルだからこそ、紙芝居に聞き入ることができた。紙芝居でも、乳搾りや放牧などの暮らしには驚いていたが、

なぜ手伝いをするのか、家族を思いやる気持ちを考える場面では、すんなりと自分たちの普段の生活に置き換えて考えることができたようだ。

細かく反省する点は多々あるが、今回の実践を通して、国際理解教育・開発教育は決して遠い国の現状を伝えることだけではないと感じた。子どもたちの身近な生活の中で、周りの人を大切にしたり、食べ物や自然に感謝したり、自分の夢に向かって頑張ることも、全てが開発教育に結び付く可能性を持っているのではないだろうか。そうした子どもたちの生活全体を見渡して、うまく世界の国々と結び付けて学習することで、子どもたちの考えや視野が広がっていくのだと感じた。

今後も、どの場面でこういった活動が展開できるのか日々の学級経営の中で考えていきたい。教師がアンテナを高く持ち、どのようにアレンジするかが大切である。そのアレンジも自分次第で色々な方向に広がる可能性があるから、開発教育はおもしろいのだと思った。

## (5) 参考文献 (引用文献・参考資料)

- 『地球家族』 ピーター・メンツェル TOTO 出版 1994
- 『こどもがはじめてであう せかいちず絵本』 とだこうしろう 戸田デザイン研究室 1993
- 『こっきのえほん』 戸田やすし 戸田デザイン研究室 1987
- 『平成20年度 教師海外研修 授業実践報告書集』 JICA 地球ひろば 2009
- 『平成19年度 教師海外研修 授業実践報告書集』 JICA 地球ひろば 2008
- 『参加型学習で世界を感じる』 特定非営利活動法人 開発教育協会 2003
- 『市民学習実践ハンドブック教室と世界をつなぐ参加型学習30』 特定非営利活動法人 開発教育協会 2009
- 『国際協力と開発教育』 田中治彦 明石書店 2008

## (6) 使用教材

3限目に使用 (モンゴルクイズ)



Q:この人たちは、だれでしょう。



A:じつは、モンゴルという国の人たちです。

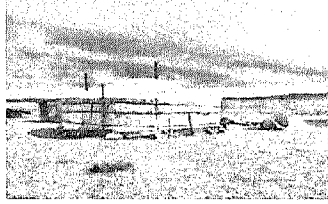


# モンゴルクイズ!

「ぼんかすばんそえちぼう、  
きみは、なんもんぞいかにできる  
かな？」

1. これは、なんでしょう？

- ①いえ ②サーカス



★中のようなすき、のぞいてみよう!

ベッドもあるよ。

たかいはしらがあります。



天じようからは、日のひかりがは  
いるよ。



2. あるむらで、りょうりの火さもやそうとして  
います。なにをよやしているのでしょうか？

- ①かれた木 ②うまやうしのフン



3. これは、なんでしょう？

- ①ひつじのほね ②しろいし



★なににつかうものか、かながえてみよう!

モンゴルのむらでは、うしやうまやひつじと 人  
はなかまし! うまにのつてとおくへいつたり、  
うしのミルクをしほってのんだり。  
くらしの中で、たくさんやくにたちます。



★ほかにも、トランプをしたり、テレビを見たり、バス  
ケットボールをししたりして、あそんでいるよ!



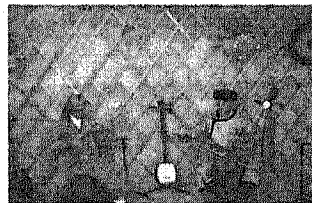
トランプで丁どらべ  
しているよ!

おんりてテレビを見  
るのはたのしいね。

バスケットボールも大  
好きだよ。



★この人たちは...?

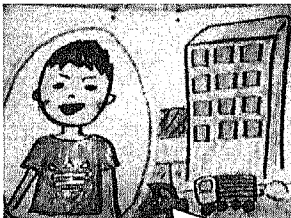


デールは、すぐにきれて、あたたかくて、と  
てもべんり。いまでも  
まちの中で、きている  
人を見かけることもあ  
ります。

でも、わかい人たちは、  
ようふくをきている人  
がおおいです。日本と  
にているね!



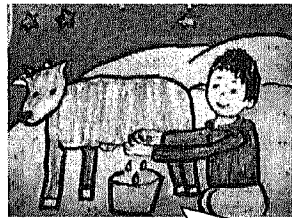
## 4 限目に使用 (紙芝居)



ぼくの名前はバチュカ。モンゴルの街に住む 16 歳の男の子です。高いビルがニョキニョキ建っているし、車もたくさん通るよ!



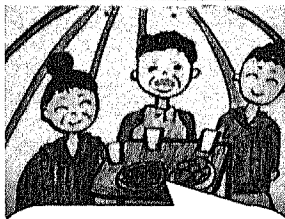
夏休みには、おばあちゃんとおじいちゃんがいる村へ行くんだ。街とはちがって、広い草原がどこまでも続いているところだよ。



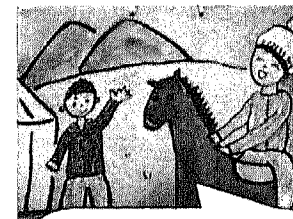
朝は 5 時に起きるよ。外は寒くて真っ暗だ。まずは牛の乳しぼり! 1 時間くらいやるんだ。だってぼくの家にはうしさんは 10 頭くらいいるんだもん。



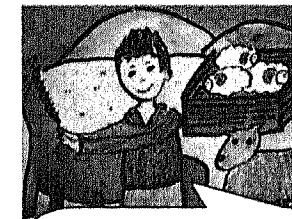
乳しぼりの後は、朝ごはん。その後は、動物たちをたくさん草が生えている所に連れていくよ。たくさん食べて、元気に育つね。



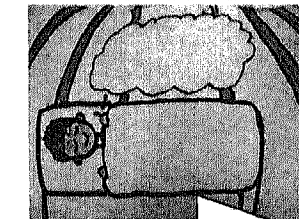
動物たちを放し飼いにしたら、もうお昼ご飯。おばあちゃん手作りの麺は、とってもおいしいよ。おじいちゃんはチーズを作るよ。



2 時ごろになると、近くの友だちが遊びに来るんだ。馬に乗って、ビューンととんでくるよ。離れていても、あつという間!



夕方になってきた。動物たちを迎えに行かなきゃ。羊は囲いの中に、馬や牛はロープでつなぐよ。さあ、夜の乳しぼりをするぞ。



今日も一日、たくさん働いたなあ。11 時には布団に入るよ。いい夢みれるかな、おやすみなさい!